

平成20年度第1回政策評価委員会 摘録

平成20年7月3日(木)

第3庁舎15階第1会議室 13:00~

議事1 事務事業総点検及び施策評価の実施結果について

質疑なし

議事2 施策評価の検証結果について

委員長 政策評価委員会では、行政の行った第1次評価に対して、2次的評価を行っている。今回のチェックシートの項目にもあるように目的の妥当性等もあるが、主眼となるのは、市民に分かりやすい説明になっているかどうかということにある。こうした点を踏まえて、御意見を伺いたいと思う。

委員 今回はじめて検証してみて、なかなか難しく感じた。現在、3つの協働事業に関わっていて、予見を持ってしまい、厳しい評価をしてしまった。全体的な記述が社内の報告書的で、もう少し丁寧な記述をして欲しいと実感した。

委員 今回の検証から4段階評価から5段階としたが、それがいいのかという議論がある。また、2人の委員の検証結果に差があることをどう考えるのかということもある。個人的には、5段階評価については、かなり細かく明確に検証することができるようになったのではないと思う。また、2人の委員で差が開いていることについては、むしろ、そういうことが必要なのではないと思う。いっしょになるよりは、いろいろな考えから評価が導き出されるということで、良いのではないかという印象を持った。

委員 かなり厳しい評価をした。評価方法を明確にしたので、のつかない項目が増えたところがある。これだけ、きちんと実施計画(川崎再生フロンティアプラン)を作り、評価活動を行っていて、それをきちんと表現しきれていないところを是非もう少しうまく表現して欲しいという思いの現れと理解していただきたい。市の内部の評価をブラッシュアップしていただけたらと思う。今回、評価委員が検証に使ったチェックシートを職員の方が自己評価する際にも活用してはどうか。

委員 明確に書いている評価票は評価しやすいが、ただらと文章が続いている評価票は評価が難しかったので、表現方法をきちんとして欲しい。

委員 施策そのものの内容、ソフトなものと同じハードなものと同じチェックシートで同じ切り口で、全てを見るのはなかなか難しい。あまり、細かくする必要はないが、内容によって、2つとか、チェックシートを変えてもよいのではないか。

副委員長 はじめての検証作業を行ったが、2人の委員の差が、思っていたほど、ないと感じた。同じような施策・分野でも担当によって書き方が違って、かなり評価の高低差が出た。定量的な説明ができるハード系の方が説明しやすいと思っていたが、必ずしもそうではなく、定性的なものでもよく書けているものがあった。御担当の理解度やプレゼン力などによるところが大きいと思う。また、後ろに続いている資料にいろいろな材料があるのに、なぜ、それを使わずに説明するのかということ強く感じた。それから、やはり自分の専門分野には評価が厳しくなりがちであった。厳しく評価したところについては、必ず説明を加えてあるので、原課へはフィードバックして欲しい。

委員 委員会として、この評価シートはよくできているというものを推薦してみてもどうか。

委員長 モデルとして取り上げるのはいいと思う。私も自分の専門は厳しくなると思う。そのために2人でチェックしている。細かく見ていけば、大きな差があるものもあるが、評価者のバックグラウンドや知見などの違いから、甘い傾向の人、辛い傾向の人があるのは許容できると思う。

今回、委員の意見として出していただいたモデル的なものは委員会として出していききたいし、フィードバックして欲しいと思う。

委員 自己評価の結果は、市民向けのものであるということは、どこまで職員に周知されているのか。

事務局 毎年、ホームページ等で公表しているので、職員は市民向けのものであることを理解している。

委員 分かりやすさということについて、自分が担当したところが、たまたま、そうだったのかもしれないが、今回と前回であまり変化がなかったように思う。今後の対応について、しっかり考えていく必要があると思う。

委員長　ものさしとなる指標があると評価しやすい。指標化については、前に委員会でやったが、とりあげていくのはどうか。

委員　　昨年も同じような意見が出ていたような気がする。そういったものを改善していくための取組はどうなっているのか。

事務局　指摘を受けたものについては、担当局に戻して、その対応についての報告を求めており、3月の委員会では担当局からの対応についての報告を説明させていただいた。今回の検証結果についても、各委員のチェックシートが各施策のマニュアルになると考えているので、担当局へフィードバックして、評価票の改善を図っていきたいと考えている。

副委員長　他の担当者が作成した評価票を見ることはできるのか。

事務局　ホームページで公開しているので、職員も見ることができる。

議事3 施策評価の検証結果に基づく意見集約について

委員長　19年度の施策評価の検証結果について、どうまとめるかということについて、御意見等があれば、お願いしたい。

委員　　それ以前の部分は入れないのか。

事務局　検証結果は19年度だが、3年間の総括的なものは入る。

委員　　評価の手法の変遷についても説明が必要だと思う。

委員長　3年目については、特に分かりやすさということをブレイクダウンしたということを表現して欲しい。

議事4 その他（今後のスケジュールについて）

委員　　次回の議題の1つとして、今回の検証結果をどう改善につなげていくのか、どのように改善活動に使っていくのかということを経題に入れて欲しい。

事務局 もう1点、委員会の中で審議して欲しい評価票があるという御提案あったので、議題として取り上げていただきたいと考えている。

副委員長 こういう評価をするに当たって、担当者の方に何かインセンティブがあると良いと思うが、どうか。検証の結果、点数が良いと何かあるとか・・・。

事務局 施策評価及び事務事業総点検と連携した人事評価がある。その人事評価は施策評価及び事務事業総点検の結果と連携して行うことになっており、ボーナスに差が出るしくみとなっている。

副委員長 それは職員の方も分かっているのか。

事務局 もちろん分かっている。

委員 評価票の作成を担当する人はどうなっているのか。

委員長 前に委員会で職員アンケートの報告があったが、その中で、評価票の作成者として圧倒的に多いのは主査クラスであったかと思う。

委員 いま、議論しているのは、書き方、表現にとどまっている。しかし、本来、政策評価というのは、その施策に問題がないかどうかといった点に踏み込んで評価すべきであると考えれば、表現や書き方をクリアして次のステップに踏み出せば良いと考えている。

委員長 説明責任をきちんと果たせるようになった時、ステップアップするということかと思う。本来、政策評価というと施策の妥当性まで踏み込んで議論すべきということになるが、実際やるとなると、各委員の持つバックグラウンドなどもあり、なかなか難しい面がある。そこまで行くにはもう少し時間がかかるかと思う。そのためにも、まずは市民や職員へのフィードバックの過程が大切であると思う。

委員 市民委員として参加させていただいているので、項目の中で、自転車の問題とか、河川の問題とか、身近なもの、暮らしていて目に見えるものは大変よく分かる。文章力はともかく、感覚的によくやっただいただいているということは分かるので、そういった意味で評価させていただいたところもある。

委員 当委員会は既に 3 年経っており、その指摘を生かして市の評価はもう少しレベルアップして欲しいと思う。市民への説明をきちんとするという意味でレベルアップが必要だ。

事務局 次回、どのような形で、検証結果を職員に提示していくのか、方向性を示したい。

委員 住民投票制度について、今回の施策評価とのリンクはあるのか。

事務局 住民投票制度の事業も評価の対象となっているので、当然リンクしている。

委員長 他に意見がなければ、質疑は以上としたいが、いかがか。

一同 異議なし。

以上